

多様な人材活用を目的とした研究体制整備について

東京薬科大学では、多様な研究者が自身の能力を確立できる環境を整備するため、以下の通り女性研究者・若手研究者の登用比率および若手研究者の育成、活躍推進の目標を定めます。

東京薬科大学 女性研究者比率に関する数値目標

薬学部の女性研究者比率について、2019年5月現在の20%から2030年までに、全体の23%を超えるよう数値目標を設定する。

生命科学部の女性研究者比率について、2019年5月現在の19%から2030年までに、全体の22%を超えるよう数値目標を設定する

東京薬科大学 若手研究者比率に関する数値目標

薬学部の若手研究者比率について、2019年5月現在の31%から2030年までに、全体の34%を超えるよう数値目標を設定する。

生命科学部の若手研究者比率について、2019年5月現在の19%から2030年までに、全体の22%を超えるよう数値目標を設定する。

※ 40歳未満の研究者を若手研究者とする。

東京薬科大学 若手研究者の育成、活躍推進の目標

- 1) 東京薬科大学 研究推進機構の下、本学では、共同研究センターにおいて若手研究者を対象に研究ユニットを設置している。今後、萌芽ユニットの募集～審査～評価、学内共同研究の推進、学外研究誘致等、若手研究者の育成と活躍推進を目指し、若手研究者の公的・民間からの競争的資金獲得を後押しする。
- 2) 本学では、研究・開発及び教育に従事可能なクロスアポイントメント制度を設けている。今後、当制度による人材流動化を推進し、研究・開発分野での若手研究者の育成と活躍推進を目指す。クロスアポイントメント制度の実績として、2022年9月現在の0件から2030年までに、5件を数値目標として設定する。

2019年9月24日策定

2022年9月27日改定

東京薬科大学 学長

三巻 祥浩